

私はこんな風に使っています！

農業生産法人
キッチンガーデン(株)

このコーナーでは、「自然農法の種子」を活用いただいている方々の栽培や種子に対する思い、使用している自然農法品種についてご紹介いたします。

第8回となる今回は、地元有機農家と一体となつて有機農業の推進・普及に取り組んでいる熊本県上益城郡山都町の農業生産法人キッチンガーデン株式会社(以下キッチンガーデン)に訪問しました。

熊本市から車で1時間半ほど山道を走り、途中阿蘇の自衛隊の演習場に迷い込むなど

のアクシデントにみまわれながら、キッチンガーデンに到着しました。キッチンガーデンがある山都町は標高500mの中山間地できれいな空気と水に恵まれた地域です。

今回、畑を案内してくれたのは入社5年目のキッチンガーデン生産部の松本春華さんです。

糞を乳酸菌で発酵させた堆肥を使い、マンガン資材や塩田から採取した「にがり」資材等に含まれる微量要素を施用することでアクが少なく健康な作物栽培を心がけています。



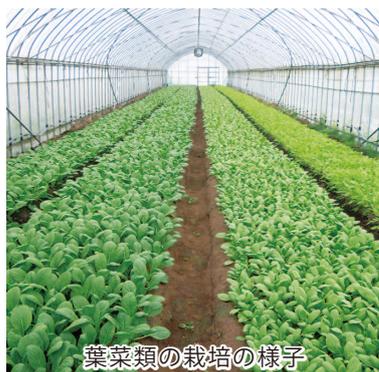
栽培担当の松本さん

土づくり、水、そしてタネへのこだわり

キッチンガーデンでは全て有機JAS規格に適合した資材を用いて栽培しています。土づくりの主体は馬

水を「エレン水」や作物の吸肥力を向上させる効果がある「ナノバブル」という特殊な水をかん水に利用しています。

また、葉菜に関しては固定種を使った旬の栽培にも取り組んでいて、栽培している固定種はホウレンソウの「赤根」、「次郎丸」、「日本」で、この3品種でホウレンソウの出荷量全体の6割程度とこのことでした。コマツナは「丸葉小松菜」、「新晩生小松菜」で



葉菜類の栽培の様子



地場品種「ヒゴムラサキ」

す。これらの固定種は交配種に比べて、べと病や白さび病などの病気に弱いものの、食味と品質が良いということで栽培しています。

果菜類はナスとキュウリを栽培しています。ナスは焼きナスにすると最高にうまいといわれる熊本県の地場品種「ヒゴムラサキ」(交配種)を栽培し、キュウリは当セン

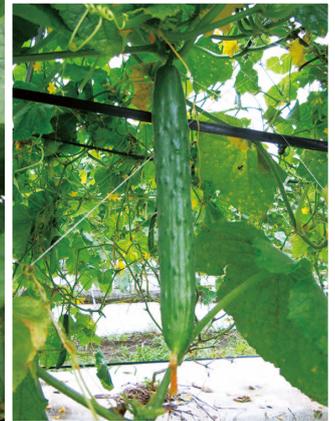
バテシラズ3号の栽培状況

ターで育成した「バテシラズ3号」を栽培しています。キッチンガーデンで収穫された野菜は全量「コープ自然派」に出荷しています。

キッチンガーデンではバテシラズ3号を30a栽培しています。畑は火山灰が降り積



キッチンガーデンで栽培されているパテシラズ3号の草姿と果実



もってできた黒ボク土で水はけがよい土壌です。
30aのキュウリの畑はなかなか迫力がありました。取材当時熊本は雨が多く、天候には恵まれていませんでした。
しかし、パテシラズ3号は収穫中盤ということもあり、べと病が下葉に僅かに見られましたが、暖地のキュウリ栽培で問題となる褐斑病の発生はほとんど見られませんでした。
キッチンガーデンではパテシラズ3号を、頒布を開始した2009年から栽培しています。パテシラズ3号は収量が高く、長期収穫に向くという事で栽培されています。
取材時は7月28日でした。尻太りや曲がり果などは少なく若竹色の果実がたわわに実っていました。試食のためにパテシラズ3号の果実を手にとって私はびっくりしました。果実の締まりが他の地域で栽培したものとは明らかに違っていたからです。私もパテシラズ3号の育成にわずかばかり携わり、栽培の経験もありましたが、こんな果実は初めてで

した。果実を振ってもたわむことが無く、触っただけでその果実の締まりが良いことがわかりました。早速試食させていたと、その果実は歯切れが良くホロホロと軽い食感で、かつ瑞々しくさわやかな風味があり、とても美味でした。

この味の違いがどこから来るのかは定かではありませんが、私は水、土(ミネラル)、タネへのこだわりからなのではないかと感じました。栽培者のこだわりがうかがえる逸品でした。
(育種課 巴清輔)

今号の紹介品種 キュウリ 「パテシラズ3号」



露地の早まきから普通まきに適する品種です。主枝雌花率は25～30%。着果肥大が良く、側枝発生も旺盛で褐斑病、うどんこ病、べと病に強く、収穫後半でも成り疲れが少なく、長期間収穫が楽しめます。果実は鮮緑色、やや長めで尻太りが少なく果揃いが良いため、専業農家から家庭菜園実施者まで幅広くご利用いただけます。

パテシラズ3号は当センター育成キュウリで人気ナンバー1の品種です。ぜひ皆さんの菜園でも栽培してみてください。

作型図

